

[ 無題 ]

N《茨城支部ニュースレター10月号》

平成30年10月21日(日), 日本臨床発達心理士会茨城支部

平成30年度第1回公開講座(第2回資格更新研修会)が行われました。

1 場 所 つくば国際会議場

2 内 容 「不登校の心に寄り添い, 育ち・学びを支えるために」

講師 NPO法人リヴォルヴ学校教育研究所

小野村 哲 氏

3 参加者 56名 (一般19名/会員37名)

4 研修内容

<前半>

○ アイスブレイク

- ・手遊びゲームは, 失敗するから楽しい。
- ・しかし, 子ども達が楽しさをこえて迷い始めたら, 進行を止めてコツを伝授。
- ・「もしもしかめよ」の歌に合わせた動作, 4人組になったのゲームなど, あっという間に会場の雰囲気や和みました。

○ 育てるために大切なこと

- ・4人グループになり, それぞれ考えることを話しあいました。皆さんの様々な示唆に富んだ意見を伺うことができました。
- ・違いを理解し, その子なりの育ちを認めること
- ・生きること, 学ぶことの楽しさを教えること

等, 小野村先生からのお話もありました。

○ 疑似体験

- ・イラストや文字を通した視覚的疑似体験で, 分からずに困っている子のことがよく理解できました。
- ・文字には, ほんの少しの違いが決定的な差を生むポイントがあり, 子どもがその違いに気づくチャンスを用意することの重要性が理解できました。

具体的な体験, 話し合い活動を通じて, あっという間に時間が過ぎていきました。ゲームをみんなでしているように, いろいろなことを学ばせて頂き, 楽しい時間でした。

。

<後半>

○ 寄り添うためのスキルと心: ケースについて話し合い

- ・アセスメントの手順を説明していただいた後, いろいろなケースについて, グループで, 実際に考えていきました。
- ・「何が問題か」「なぜ問題か」「何をすればよいか」など, グループで話す中で, 自分の考えも絞り出され, また, 他の方のいろいろな考えが聞けることが勉強になりました。

○ ふりかえりとディスカッション: 「不登校の何が, なぜ問題なのか?」

- ・社会に触れる機会が失われることが問題, 将来まで持続する可能性がある
- ・学習機会が失われることが問題?  
→しかし学力は後から取り戻すことも可能
- ・保護者の気持ちが揺れることが問題
- ・不登校を問題にすること自体問題

など, 様々な角度から意見が出されました。

○ 不登校の問題の本質

- ・本人が自信を失うこと
- ・揺れる保護者を見て本人が傷つくことも

○ 上記問題に対し, すべきこと

[ 無題 ]

- ・子どもの話を聞き、理解しようとする人がいること
  - ・学習や経験の場を（学校以外にも）用意すること
- という話が最後にありました。

子ども達の抱える問題に対して、自分の考えを  
見つめる大切な時間となりました。

- 日本臨床発達心理士会規約改定のお知らせ
- ・今年度より、臨床発達心理士支部役員の任期が、3年から2年に変更されました。  
つきましては、次回の役員選挙は2020年となります。

\*\*\*\*\*

次回の研修については、後日、ご案内いたします。ご参加お待ちしております。  
文責 河村要和

\*\*\*\*\*